

# えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



## 6月15日(金) 救援会相模原支部 末永俊昭

6月15日午後から大助さんに面会するため、千葉刑務所へ国民救援会相模原支部の田中さん、橋本さんと三人で行きました。田中さんは四回目、私は二回目、橋本さんは初めての面会でした。橋本さんは切手と便箋、陶芸品などを写真にした手製のハガキを差し入れしようと持参しましたが、便箋と私製ハガキは差し入れできないと係官から言われて、残念な思いをしました。(刑務所内の売店で購入した便箋や官製はがきは差し入れOK)

面会室で大助さんから、激励ハガキで写真等が張り付けられている物は没収されると言われました。守さんの手に傷のあることに気づいた橋本さんが「いじめにあっているのですか」と思わず聞くと、立ち合いの係官と守さんは苦笑いして、「仕事の中にいつの間にか出来たものです」

大助さんは、自身の仙台高裁の決定や、袴田さんの東京高裁の決定、湖東病院の高裁決定などを、私たちより詳しく知り、分析されていて「警察や検察の姿勢は変わらないと思うが、裁判官の姿勢は変わらなければ変えなければいけない。必要な証人尋問や証拠調べ、証拠の開示をきちんとしていただけるなら、私の無実は明らかになる」と最高裁に向けての展望を話されました。大助さんは二年前に面会した時と変わらずに、冤罪の怒り、悔しさ、悲しみを、みんなの前では見せずに笑顔で対応されていました。ガラス越しに感じる大助さんの気持ちを受け止めて、最高裁の戦いを強化していかなければと思いました。

今月はお母さんが体調不良のため面会に来れないとのことで、日用品と週刊誌を差し入れし、現金も後日差し入れることにしました。今は月5回の面会が許されているようですが、月5回の面会はあまりないそうです。

今回も救援会千葉県本部の戸賀さんに大変お世話になりました。面会待合所で40分以上待たされた後に30分の面会をしたため、戸賀さんには長い間待たせてしまいました。戸賀さんによると面会所に入る鉄の扉の門番は外注労働者とのこと。 ↗

## えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

→ 40分待たされたのも面会立ち合いの係官が一人だけだからではと思われる。追記 6月16日に守大助さんを支援する神奈川の会が、仙台高裁の決定に抗議する集会を開き、最高裁に向けての署名について討議がされました。全国連絡会の英知を結集した統一署名をつくり、全国で統一行動ができるようにしてもらいたいと思いました。

差し入れ 週刊誌2冊、シート、ちり紙、ハミガキ粉  
現金、



左から  
末永さん  
橋本さん  
田中さん

激励先 〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2018年 119号

●7月の面会12、20、23、25、31。 8月は上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp



## 6月28日(木)守大助さんと面会

武弘 浄美さん

バスを降りて少し歩くと、直にレンガ造りの重厚な建物が門の奥の方にありました。

門には『千葉刑務所』と書かれていました。「やっと来た」「やっと会える!」と思いました。

面会をするためには、事前に守大助さんに面会希望の手紙を出します。突然行っても面会はさせていただけません。刑務所の入り口横に受付があり、そこで面会理由などを書き込む書類に記入をし。身分証明できるものを渡します。その後刑務所に入れるのですが、そこで再度身分確認され、手荷物をロッカーに預け、受付番号が書かれた名札を付けて、やっと待合室まで行くことが出来ました。

名前が呼ばれ面会室で大助さんに対面できた時には、頭は真っ白になり、何を言ってもいいかわからなくなりました。当日大助さんは、炊事場での刑務中で、しかも一番忙しい時間だったそうです。とても出られる状況でなかったそうでしたが、周りの方々に背中を押して頂き、面会室に来られたそうです。少しでも早く面会を終わろうと思いましたが、あっという間に30分が来てしまいました。守さんは全国に支援して下さる方々がいるから頑張れるとおっしゃっていました。

無実の大助さんが17年間も自由を奪われ、今も手荒れをし、慣れない作業をさせられています。本来看護師(准)のはずなのに、靴職人や調理士見習いとは?

全て裁く側の無責任な結果です。本当に理不尽!それでも大助さんはさわやかに見えました。

いつか冤罪が晴れた時、神戸にきてもらいたい大好きなスイーツを食べてもらって、大好きなタイガースの応援に行ってもらおう思いました。その為には冤罪を伝えて伝えて伝える事だと改めて思いました。

お忙しい中案内して下さった支援の会の戸賀さん、声を掛けて下さった山根さんを始め、兵庫の会の皆様、面会のチャンスを下さり本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。山根さんと南さん **タウン雑誌3冊**

私製のハガキは差入れできなかった



左から  
山根さん  
南さん  
武弘さん

## 6月21日(木)11時20分 救援会茨城

朝七時に家を出て水戸の田村先生宅に9時。そこから先生の車で11時20分に刑務所着。そこには既に現地の戸



森谷ご夫妻、田村さん

賀さんが待っておりました。早速手続きのやり方を教えて頂き、言われるがまま書きました。戸賀さんとは知己の係の人が今頃では面会が難しいとの事を言っているのが聞こえた。

丁度昼食に掛かって大助さんの食事時間が無くなってしまったとのことでした。戸賀さんは「いいよ、いいよ食わなかったって」と冗談を言うくらいの間柄に見受けました。

私は、大助さんの顔も知らない。何を話せばいいのか分からないまま、頭の中真っ白なまま5~6分待っていると係の人が「手前の5番に入って下さい。」と言うのに3~4番をうろろして「あーここですね。」とすました顔で入っていくと、まだ来ていない。座る順序を決めていると、大助さんが入って来た!!大助さんは、田村先生の顔を見て、最高の笑顔を見せていました。

田村先生としばし挨拶をかわして、私達を紹介してくれましたが、もうそこでは、初対面と言うより久しぶりに会った友と言う感じさえ思わせる、とびっきりの笑顔・澄んだまなざし。話は袴田さんの不当判決。彼の情報は凄い。獄中でも随分勉強している。つい先日映画「獄友」を上映し多くの人に見てもらった事を報告したらとても喜んでくれました。靴工場で働いていたが、今年の10月で丸2年になる新しい調理場の話を順を追って話してくれました。

夫も料理が好きなので盛り上がったが、30人の中でローテーションを組んで居るそうですが、常時3~4人で1000人分の食事づくりを毎日しているそうです。くたくたになって、寝るだけ。何かをやるうと言う元気もない。そういう中での面会はとてうれしいと言っていた。お母さんの具合が悪いと悲しそうな顔をしたが、終始笑顔の消えない大助さんを一日でも早くお母さんの元に帰ってもらいたい、帰りたい。そう思った30分の面会があっという間に過ぎてしまいました。大助さんも支援の輪の広がり期待しており、新しい面会人が尋ねる事が必要だと感じながら刑務所を後にしました。

差入れは週刊誌2冊、 森谷なみ